

桜蔭会 120 周年記念 香川支部講演会



女高師↓東京女高師↓お茶の水女子大学、と時代を生きた女性科学者のパイオニア

「日本初の女博士

讃岐が生んだ

保井コノはほんまもん」

保井コノ先生は、明治13年に讃岐国大内郡（東かがわ市）三本松村で生まれ、高松の県立師範学校（後の香川大学教育学部）を経て、東京女子高等師範学校理科に進み、卒業後教員になります。

その後研究の道に入り、研究生にして、しかも日本女性として初めて、外国の専門誌に論文が掲載されます。シカゴ大学・ハーバード大学留学を経て、帰国後も研究を続け東京帝大理学部から日本初の女性博士として学位記を授与されました。

また女子の国立大学発足にも大いに尽力され、お茶の水女子大学名誉教授を72歳で退官、1971年（昭和46年）に享年91歳で逝去されました。時を経て2019年にはお茶の水女子大学賞として、お名前を冠した「保井コノ賞」が創設され、今なお若い研究者の励みとなっておられます。

うどんだけでない「さぬきのほんまもん、保井コノ先生」は、日本女性科学者のパイオニアであり、言わば日本のマリー・キュリーです。

（▼讃岐人としてお茶大の後輩として、もっと多くの方に保井コノ先生の足跡と情熱を知っていただきたいと願い、今回の記念講演を企画いたしました。）

（▼讃岐人としてお茶大の後輩として、もっと多くの方に保井コノ先生の足跡と情熱を知っていただきたいと願い、今回の記念講演を企画いたしました。）

令和6年11月9日(土)11:10~12:30・栗林公園内花園亭にて・講演会無料（入園料別途）

講師：吉祥 瑞枝（きっしょう みずえ）博士 学術(お茶の水女子大学) CSJ フェロー
（一社）研究・イノベーション学会副会長 サイエンススタジオ・マリー主宰

讃岐（香川県）出身。お茶の水女子大学(物理学科)卒。丸亀高校在学中に日本女子代表として ISEF 米国カンザスシティに派遣、「銅アンモニア絹糸の研究」で入賞。放送大学一期生 産業と技術専攻。専門は、女性と STEM [Science (科学) Technology (技術) Engineering (工学) Mathematics (数学)]。日本化学会化学教育賞受賞他。著書:キュリー夫人の理科教室(丸善) キュリー夫人の玉手箱(東京書籍) など多数。

